

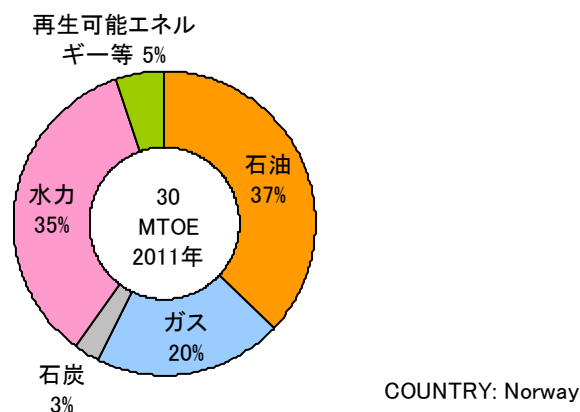
## 2-13 ノルウェー

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

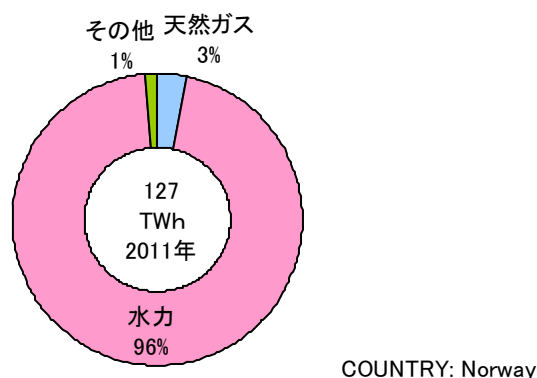
- (1)一次エネルギー供給量 (2011年) : 30 百万 MTOE (日本の 0.07 倍)
- (2)一人当たり一次エネルギー供給量 (2011年) : 6.03T0E (同 1.67 倍)
- (3)エネルギー自給率 (2011年) : 656%
- (4)エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量 (2010年) : 39.17 百万 CO<sub>2</sub> 換算 ton (同約 3.4%)
- (5)一人当たりエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量 (2010年) : 8.01CO<sub>2</sub> 換算 ton (同約 89.3%)
- (6)エネルギー源別可採年数 (2011年末) 石油 (9.2年)、天然ガス (20.4年)

一次エネルギー供給構成 (2011年)



(出所) IEA, Energy Balances of OECD countries, 2012 Edition

発電電力量構成 (2011年)



(出所) IEA, Energy Balances of OECD countries, 2012 Edition

## 2. エネルギー政策のポイント

### (1) エネルギー政策担当機関

- ノルウェーのエネルギー政策は、石油・ガス関連については石油・エネルギー省 (Ministry of Petroleum and Energy) が管轄し、現在の大臣は Ola Borten Moe (2011年3月～) である。温暖化ガスの排出量削減など環境面の取り組みについては環境省 (Ministry of the Environment) が管轄しており、現在の大臣は Bård Vegar Solhjell (2012年3月～) である。

### (2) 基本政策

- ノルウェー政府は1999年に発表した「エネルギー政策に関する白書」において、その基本政策として、省エネルギーの推進、代替エネルギーの積極的な導入、風力発電の開発や発電用燃料としての天然ガスの利用促進などを掲げたほか、水力発電に関しては環境保全のため小規模水力発電の開発や既存発電所の能力アップに限定するとしている。

### (3) 最近の動向

- ノルウェーは近年、自国近海の石油天然ガス資源の価値を見直し、開発に注力している。2011年6月、石油・エネルギー省は白書「未来への産業－ノルウェーの石油開発」を発表し、より付加価値の高い資源開発の方向性を提言した。

## 3. 日本とエネルギー分野における関係

- 日本はノルウェーから原油を2010年に54,000ton輸入。2011年は原油・ガスとも輸入実績なし。LNGに関しては、スポットで輸入実績がある。

## 2. 主要エネルギー指標

(2011年)

(1)	一次エネルギー供給量	30	MTOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	6.01	TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.62	TOE/k\$
(4)	エネルギー自給率	656	%
(5)	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (2010)	39.2	百万 CO <sub>2</sub> 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (2010)	8.01	CO <sub>2</sub> 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	石炭	3 %
		石油	37 %
		ガス	20 %
		原子力	0.0 %
		水力	32 %
		再生可能エネルギー等	7 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-553	%
(9)	石油の輸入依存度	-736	%
(10)	輸入原油の中東依存度	0.0	%
(11)	原油輸入先 (2010年)	第1位	ロシア
		第2位	ナイジェリア
		第3位	イギリス

(出所) : (1)~(4)および(7)~(9)は IEA, Energy Balances Of OECD Countries, 2012 Edition.

(5)~(6)は IEA, CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition.

(10)~(11)は IEA, Oil Information, 2012 Edition.